



2020年3月 第18巻 第3号

かく語りき—聖人の言葉

あなたが熱心にお祈りをしているときに、それをあざける者とは距離を置きなさい。神を敬う気持ちや信心深さを冷やかす者たちは避けなさい。

…シュリー・ラーマクリシュナ

愛と忘我の神秘を無神論者に言うことなかれ。そやつは己自信を崇拜することに夢中ゆえ、かくの如き特性の存在を知らずして死ぬことをむしろ選ぶのだから。

…預言者 ザラツシュトラ

今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- 2020年4月～(2020年5月)の予定
- 2020年2月逗子例会
スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
生誕祝賀会
- 2020年2月の逗子例会 午後の講話

「ナラリシ」

スワミー・メーダサーナンダ

- 2020年4月の逗子例会 講話より
「毎日の生活をサポートする教訓」

スワミー・メーダサーナンダ

- 忘れられない物語
- 今月の思想

4月、5月の予定

- 4月～5月の生誕日

シュリー・シャンカラチャーリヤ
4月28日(火)

お釈迦様 5月7日(木)

- 4月～5月の協会の行事

※新型コロナウイルスの影響下で、信者の皆さんを心と霊的な面からサポートし続けていくために、4月はすべての講話を皆さんが自宅のコンピューターや携帯電話で見られるように、ライブストリーミングしています。

5月の予定は未定です。スケジュールが決まり次第、日本ヴェーダーンタ協会のホームページに載せますので、そちらでご確認ください。

シュリー・ラーマクリシュナとシュリー・サーラダーデーヴィーの恩寵で、この状況が一日も早く終わりますように、皆さまの健康と安全をお祈りいたします。

4月予定表

4月5日（日）14:00～16:00

逗子午後例会

講話テーマ「信者はどのように災害に立ち向かうべきか」

『ラーマクリシュナの福音』勉強会

4月19日（日）14:00～16:00

月例講話

講話テーマ「霊的生活における毎日のスケジュールの重要性」

4月26日（日）14:00～16:00

バガヴァッド・ギーター講座（新）

※インド大使館聖典講義の続きではありません

4月29日（祝）アカンダ・ジャパム→中止になりました

すべてのプログラムに関するお問合せ：benkyo.nvk@gmail.com

ハタ・ヨーガ・クラス

コロナウイルス予防対策のために4月の逗子ヨガは全休講になります

お問い合わせ：090-8170-0003（荒井弘人）

メール：ochanomizuyoga@gmail.com

専用ホームページもご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

5月予定表

スケジュールは未定です。

ハタ・ヨーガ・クラス

5月9日、23日、30日を予定しておりますが、コロナウイルスの影響で休講の可能性あります。お問い合わせください。

時間：10:30～12:00

お問い合わせ：090-8170-0003

（荒井弘人）

メール：ochanomizuyoga@gmail.com

2020年2月逗子例会

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

第158回生誕祝賀会

2月16日（日）、日本ヴェーダーンタ協会では、2月の逗子例会にて第158回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミージー）生誕祝賀会を開催しました。

ボランティアがさまざまな準備を行う中、信者は午前10時頃から別館に到着し始めました。最後の準備が終わり花と供物で祭壇が飾られると、儀式台

におられるスワミー・メーダサーナンダジのもとに、アシスタント聖職者としてスワミー・ディッヴィヤーナターナンダジ（ア Nilヴァン・マハーラージ）が加わり、11時開始の礼拝（プージャ）に備えられました。

焚かれた線香を線香立てに置くと、スワミー方は瞑想とともにアーラティを執り行い始められました。マハーラージが儀式の文書を見ながらマントラを唱えられている間、ア Nilヴァン・マハーラージは儀式の所作やムドラー（印）をなさいました。45分後、鐘の音とほら貝の音とともに、マハーラージは聖花を祭壇のスワミージーの写真に捧げられました。そして供物奉獻を続けるために儀式台に戻られました。マントラ、鐘とほら貝と共に、礼拝は続き、さらなる花と礼拝がスワミージーに捧げられました。再び、ムドラー、マントラを唱えて礼拝は終わりました。

続いて、泉田シャンティさんのシンセサイザーのリードで『カンダナ・バヴァ・バンダナ』を参加者が歌い、ほら貝が響く中、ア Nilヴァン・マハーラージは五大構成要（エーテル・空気・火・水・土）を奉獻するアーラティを続けられました。

アーラティが終わると、マハーラージはシャンティさんに参加者と共に『サ

ルヴァ・マンガラ・マンガリエ』を歌うように求められました。

歌が終わると、スワミー・メーダサーナンダジはインド大使館ヴィヴェーカーナンダ文化センター長であられるシッダールタ・シン教授にお言葉を求められました。

「(日本語で) コンニチハ。 みなさん、こんにちは。まず初めにスワミー・メーダサーナンダジと日本ヴェーダーンタ協会がこのめでたき場にお招きくださったことに感謝いたします。皆さんがスワミー・ヴィヴェーカーナンダ、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザーに敬意を表すために集まったということに心からのご挨拶を申し上げます。このように敬意をもってここに集まることによって、私たちはパラマハンサ・シュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージに込められている普遍的な兄弟愛の意味を理解することができます。彼らのメッセージは、いかなるカースト、信条、宗教、文化、国にも制限されるものではありません。それはすべての者のためであり、それらすべての知識の道を含んでいます。スワミージーは、真理は一つでありすべての道が真実なので、多くの道を通して真理に達することができる、と言いました。師たちのメッセージを説いて聞かせ、実践することで、現代世

界に平和と調和をもたらすように励みましょう。それは、互いに奉仕し、互いに交流し合い、愛と兄弟愛の普遍的なメッセージを共有することで可能となります。最後に皆様への感謝の言葉とお祝いの言葉を申し上げます。スワミー・メーダサーナンダジ、お招き下さり本当にありがとうございました」 (拍手)

マハーラージの返答

「シン教授にお越しいただけたことに感謝いたします。なぜなら、私たちは東京のインド大使館と非常に特別な関係にあるからです。皆さんもご存知のように、私たちはヴィヴェーカーナンダ文化センターの後援のもと、月に一度バガヴァッド・ギター勉強会を開催しているので、センターには本当に感謝しています。シン教授はベナレスのご出身でベナレス大学を卒業されました。

私は、彼が奥さんと息子さんと一緒に来られたこともうれしく思います。あなた方を心より歓迎するとともに、任期中はたびたびここに足を運ばれることを望みます」
ありがとうございました。(拍手)

供物は本館に下げられ、マハーラージはガンジス川の水を参加者の間を歩いて振りかけながら全員を清められました。小花と葉が配られると、マハー

ラージに続いて全員でスワミー・ヴィヴェーカーナンダに捧げるプシュパンジャリ（花奉獻）のマントラを一節ずつ唱えました。プラーナ（根本エネルギー）を目覚めさせるマントラを唱え、一人一人が花を捧げ祭壇で短い祈りを捧げました。

朝の礼拝に続き、本館でプラサード（お下がり）の昼食をいただきました。約40名が参加しました。

午後のプログラムは2時半頃から始まり、参加者は再び別館へと集まりました。スワミー・メーダサーナンダジが全員にマントラ（・サハナーバヴァトウ・シャムノーミットラ・プールナマダ）を唱えるようにおっしゃいました。

マントラ詠唱が終わると、マハーラージはアニルヴァン・マハーラージにスワミー・ヴィヴェーカーナンダの賛歌を歌うように求められました。続いて『ヴィヴェーカーナンダの生涯』を朗読しました。

レオナルド・アルヴァレスさんが通訳者として儀式台に上がられ、マハーラージはスワミー・ヴィヴェーカーナンダにまつわる講話を始められました。（内容は次のレポートにて）講話の後に信者が賛歌を歌い、そしてアニルヴァン・マハーラージが賛歌を歌わ

れて、午後のプログラムは終わりました。照明が消され、残った参加者は瞑想をしました。



2020年2月返子例会
スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
第158回生誕祝賀会
午後の講話「ナラリシ」
スワミー・メーダサーナンダ

シュリー・ラーマクリシュナはナレ

ードラナート（のちのヴィヴェーカーナンダ）に出会う以前に、彼が天国の高いところで、7人の聖者の1人としてサマーディに没入しているヴィジョンを見ました。天界にはさまざまなレベルの聖者や賢者が存在します。神道でも信仰しているような風の神や山の神といった普通の神も存在しますが、強烈に放棄したその聖者たちは、霊性のレベル、神への愛において、とても高い場所にいました。7人の聖者をサンスクリット語で「サプタリシ」と言いますが、シュリー・ラーマクリシュナが見たその1人はナラリシだったので、シュリー・ラーマクリシュナは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミー・スワミー）はナラリシの化身である、と言いました。ナラリシは師の要求に応じて師の仕事を助けるために、人として生まれたのです。かなり後で、ある兄弟弟子はスワミーが本当のところ自分がだれか知っているのか、つまり彼はナラリシの生まれ変わりなのかどうかを知りたがりました。スワミーは「はい、私は自分が誰か知っています」と答えました。

スワミーにまつわる賛歌が二つあります。一つはスワミー・ラーマクリシュナーナンダが作ったスワミーへの賛歌で、もう一つはスワミー・サーラダーナンダが作った、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー、そしてスワミーを

含む直弟子への賛歌です。

前者の賛歌の最後の2行は、ラーマクリシュナ・ミッションではスワミーへの礼拝のプラナム・マントラとして用いています。「ナマ シュリー ヤティ ラジャヤ ヴィヴェーカーナンダ スーラエ、サット チット スカ スワルパヤ スワミネ タパハリネ」という歌詞の中の「サット チット スカ」は、スワミーの本性である「絶対の存在、絶対の意識、絶対の至福」を意味します。

後者の賛歌では、スワミーを「パラタットワ サダリナ」つまり、スワミーは常に最高の真理と一つになっている、と描写しています。このようにどちらの賛歌もスワミーはブラフマン意識と一つになっていたことをあらわしています。

しかしもし、スワミーが本当に常にサマーディに没入していたのなら、彼はいかなる仕事もできなかったはずだ、ということは容易に想像できます。

そうすると、これは明らかに矛盾です。にもかかわらず、師シュリー・ラーマクリシュナが亡くなった後、スワミーはインドをくまなく旅しました。後には世界宗教会議に出席するためにシカゴに旅立ち、そしてヨーロッパ、アメリカなどの西洋にヴェーダーンタを教え広めました。そしてインドに戻るとラーマクリシュナ・ミッションを

設立したのです。もし彼がつねにサマーディに没入していたのなら、全ての仕事をどのようになし得たのでしょうか？ それらは矛盾した話ではありませんか？

それについて、ヨーギーは精妙な体は体内の、ムーラーダーラ（根）、スワーディシュターナ（仙骨）、マニプラ（太陽神経叢）、アナーハタ（ハート）、ヴィシュッダ（喉）、アージュニャー（第三の目）、サハスラーラ（冠）、の七つのチャクラつまりエネルギーセンターからできている、言っているのですが、ある時スワミー・トゥリヤーナンダジは、ホーリー・マザーの心は決してヴィシュッダ・チャクラより下がることはなかった、と述べました。そのような状態で、彼女がどのようにならゆる仕事をしたのか、人びとをどのようにお世話したのかは、とても大きな神秘です。

スワミーが初めてシュリー・ラーマクリシュナのもとを訪れたとき、シュリー・ラーマクリシュナがスワミーに触れると、彼はすべての外の意識を失い、自分の本当の本性が呼び覚まされ、そして気づきが出ました。スワミーは表層の部分では、まだ自分がサブタリシであることに気づいていなかったけれど、ラーマクリシュナの霊的な一触れにより、忘我の状態の中で自分の本性を理解することが

できたのです。スワミーが師の強い霊的一触れで自分の真の本性を思い出すことができた、ということは、スワミーと一般的な人との意義のある違いです。

どうすれば、無限で永遠なるブラフマンが、例えばシュリー・ラーマクリシュナのような有限な人間としてあらわれることができるか、ということは大なる神秘ではありませんか？ どうすれば無限が有限になることができるのでしょうか？ そのことはあらゆる論理に逆らっています。しかし私たちは近代の神人シュリー・ラーマクリシュナという証拠から、サット・チット・アーナンダ・ブラフマンが、人間の形となり、絶対の平安、喜び、知識、真理への道を人類に伝えた、ということを知ります。これが意味するところは、スワミーは常に絶対の真理と一つになっていたにもかかわらず、彼は神の意志の代弁者としてこの世での使命を果たすことができた、ということで、それは否定できない事実です。

スワミーは通常の状態のときも、絶えず自分の本性に気づいていました。一方で私たちにとっては体意識が通常の状態です。私たちは常に存在する体意識のせいで、この「魂意識」という心の状態を想像することすらできません。しかし、スワミーの場合、心が神意識に没入していても、

心のごく一部でこの世界の気づきを保ち、それで人類の幸福と健康のために非常に多くの仕事を成し遂げることができました。

シュリー・ラーマクリシュナの近い在家信者で、有名な劇作家で俳優でもあったギリシュ・チャンドラ・ゴシュは、マハーマーヤーの縄について興味深い発言をしました。マハーマーヤーは肉体となってあらわれた魂を、幻惑という縄で縛ります。ギリシュは、マハーマーヤーには彼女の縄で縛ることができなかつた人物が二人だけいた、と言いました。一人はスワームージーで、もう一人はナーグ・マハーシャヤ（シュリー・ラーマクリシュナの在家弟子）でした。マハーマーヤーの縄とは何でしょうか？ それは、私たちの欲望、執着、欺瞞、サムスカーラ（心理的痕跡）を象徴しています。

ギリシュはスワームージーについて、根本エネルギーであるマハーマーヤーは無限に近い長さの縄を確かに持っているが、彼女がいくらスワームージーを縛ろうとしても、彼はどんどん大きくなり続け最後には無限の存在と一つになったので、縛ることができなかつた、と説明しました。ギリシュはナーグ・マハーシャヤについて、彼はあまりに控えめだったので、マハーマーヤーが彼を縛った縄の結び目から抜けることができたのだ、と言いました。

ここで、スワームージーがアメリカに滞在中に実際に起こったことをご紹介します。ミス・サラ・エレン・ワルドゥという霊性の求道者は、彼女を導いてくれる全く欠点のない特別な先生を探し続けていました。彼女は先生を見つけるたびにその人のもとで真剣に勉強するのですが、先生の過ちや何かに不満を抱くと、その関係は終わりました。何人かの先生との間でそのような経験を繰り返していたので、彼女はすこし失望していました。

彼女はスワームージーのことを知ると彼の講演に出席し始め、さらには信者になりました。しかし彼女は心の底では、自分はまだスワームージーの過ちを見つけていないが、やがて何らかの過ちを見つけるかもしれない、と心配していました。ニューヨークでのある日のこと、彼女はスワームージーと他の信者たちとビルの一階にいました。そこには、細長い応接間があり、その入り口は折り戸でその向かいには2つの大きな窓がありました。そして折り戸と窓の間には床から天井まで届く大きな鏡がありました。この鏡が非常にハンサムであったスワームージーを魅了したようでした。彼は深く考えてはあちらこちら歩き回り、鏡の前で何度も何度も立ち止まり、熱心に自分を見つめていました。ワルドゥはそれを見て、自分の恐れが本当になったと感じました。そして心の中で「彼はハンサ

ムを自慢に思っているんだわ」と考えました。

まさにその瞬間、スワームジーは彼女の方を向いて「エレン、とても奇妙なことに、私は自分がどう見えるか思い出せないのだよ。鏡で何度自分を見ても、そこから離れたとたんに私は自分の容姿を完全に忘れてしまうのだ」と言いました。彼女は、このことは体意識とは逆の状態、つまりスワームジーはサダリナなのでブラフマン意識にとどまっているのだ、ということを理解しました。私たちはそれとは全く逆で、一度自分の姿を見ると長い間自分がどのような姿であるか覚えていません。

アメリカでの数多くの奮闘の末にインドに戻ると、スワームジーは喘息や糖尿病などさまざまな病気に苦しみ、時には呼吸困難を経験しました。彼が息苦しさに喘いでいる間中ずっと、苦しい一息ごとに、彼の内側からは「シヴォーハム、シヴォーハム」（私はシヴァ）というマントラが聞こえてきた、ということをスワームジーが明かしたことがあります。喘息で苦しんだことがある人は、喘息発作が続いている間に息をすることがどれだけ大変なことか、そしていかに心が体の苦しみにだけ集中するかを知っています。スワームジーの生涯に起きたこの出来事は、彼が意識を体と魂とに分け、体が

激しい苦境にあってさえ魂に集中することができた、ということを示しています。

彼の永遠なるブラフマン意識を証明するもう一つの例をスワームジーの生涯からお話します。

シュリー・ラーマクリシュナは「シヴァ　ギャーナ　ジーヴァ　セヴァ」と言いました。その意味は「人の中に神を見てお世話をせよ」で、「奉仕は礼拝」とも言えます。ブラフマンは遍在ですべてに宿っている、ということをスワームジーはシュリー・ラーマクリシュナから教わりました。

私がいま伝えたい出来事は、スワームジーの弟子僧侶で、のちにニューヨーク・ヴェーダーンタ・ソサイエティの僧長となったスワーム・ボダーナンダジが語ったものです。若い修練士であったボダーナンダジと他の僧侶たちは、スワームジーと共に新しく設立されたベルル・マト（僧院）で暮らしていました。ある日、スワームジーが「今日、私はシュリー・ラーマクリシュナの礼拝をします」と発表しました。普段、僧侶たちは、既定のマントラや手順の文書に従ってシュリー・ラーマクリシュナへの儀礼的礼拝をしていました。しかし、スワームジーは儀式的礼拝があまり好きではなかったため、住み込みの僧侶たちはスワームジーがどのようにシュリー・

ラーマクリシュナへの礼拝を執り行うのかが知りたくて、それを見るために礼拝堂へ行きました。いつものように礼拝堂では、サンドルウッド・ペースト(白檀を粉にして練ったもの)や花々が準備され、礼拝に必要な道具はすでに整っていました。

スワームージーが礼拝堂に入り、シュリー・ラーマクリシュナの写真の前に座り瞑想を始めたので、他の者たちも瞑想を始めました。少し経つと、ボダーナンダジは誰かが彼の前を通った気配を感じました。スワームージーは正面に座っているのに、いったい誰だろう? そう思って彼は目を開けました。すると、スワームージーが花々にサンドルウッド・ペーストを混ぜて、瞑想しているすべての僧侶の頭の上に置いていたのです。通常の儀式的礼拝では、まず花は神様に捧げられ、それから集まった人々は花を受け取り、神様に再び捧げます。

このときスワームージーは最初に神様ではなく、そこに集まった僧侶たちに花を捧げました。観察者の最初の衝撃は、スワームージーが儀式的礼拝の規範の無視したこと、言葉を変えると「罰当たり」とも言えることだったことでしょう。しかし実のところスワームージーは、ブラフマンつまりシヴァが万人のハートに宿っている、という師シュリー・ラーマクリシュナの教え

を実践していたのです。スワームージーは彼の前に座っている僧侶たちをシヴァと見なしました。スワームー・ボダーナンダジは後に「それはまるでスワームージーが私たちの内なる神性を目覚めさせたかのようでした」と回想しました。

ですから、私たちも内なる神性を目覚めさせ、常に内在する「その存在」を意識しましょう。

2020年4月返子例会 講話より
毎日の生活をサポートする教訓:
「今日だけは」
スワームー・メーダサーナンダ
「新しい日」
カーリダーサ

※4月19日に行われた4月の月例リトリートの講話「霊的生活における毎日のスケジュールの重要性」の中で、マハーラージは、私たちの毎日の生活をサポートするための教訓として、マハーラージが作られた「今日だけは(Just for today)」と、カーリダーサ作「新しい日」を紹介してくださいました。講話の際にマハーラージは「この言葉は皆さんをととても元気づけるので、見えるところに貼っておくといいかもしれません」とおっしゃいました。この講話のレポートは6月中旬を予定の5月のニュースレターに掲載予定ですが、マハーラージの講話を観られた方に少

しでも早くこの大切な教訓を読んでいただけるように、講話のレポートに先んじて「今日だけは」と「新しい日」をお届けいたします。

「今日だけは」 スワミー・メーダサーナンダ

1. 今日だけは、朝起きるときから寝るまでスケジュールに従うように努力します。
このスケジュールには、私の身体的、知性的、道徳的及び、霊的な成長の時間を設けておきます。
2. 今日だけは、神様と結ばれますように、朝と午後2回、15分ずつ瞑想して、神様の名前を唱えるように努めます。
仕事するときも出かける時も、神様の名前を少なくとも10回ほど繰り返します。
そして私は、食べ物も飲み物もすべてを神様に心で捧げます。
3. 今日だけは、自分と他人、そして宇宙の本性について深く考えるようにします。
4. 今日だけは、自分の人生の意味とその目的、そして自分の人生の目的を実現するために何をしてきたかについて深く考えるようにします。
5. 今日だけは、霊的で思索の糧となる本を読んで、新しい学びを得るように

します。(少しでも新しいことを学ぶようにする)

6. 今日だけは、息を吸って吐いて、吸って吐いて、吸って吐いて、体を伸ばして、伸ばして、伸ばして、外に散歩、一歩、二歩、三歩するようにします。
7. 今日だけは、何があっても、私は決して怒らない、動じない、弱音を吐かない、問題を解決しようとしなない。
ただすべてを冷静で、そして快く受け入れるようにします。
8. 今日だけは、他人を一切批判しない、改善させようとしなない。
むしろ他人を褒めて励まして、彼らの良い性質に着目するようにします。
9. 今日だけは、今日のことだけに集中します。
あたかも過去も将来も存在しないように、一日自由に使える今日こそは、できるだけ理想的に、よく生きるようにします。
10. 今日だけは、私は神様の使用人であり、自分の仕事を通して他人の中に宿る神様に仕えていることを意識しながら働きます。
そして一日が終わると、私はこの日のすべての仕事を神様に捧げます。
11. 今日だけは、聞かれないと話をし

ない。テレビを見ない。新聞を読まない。携帯を見ない。パソコンで仕事をしません。

(月に1度くらい挑戦してみる)

12. 今日だけは、他人や母なる大地にどれほど恩恵をいただいているか、そして私を支えるために、どれほど貢献していただいているかに気づくようにします。

私は、他人及び母なる大地の福利のために祈り、他人を助けるように努力します。

「新しい日」 カーリダーサ

今日を良く生きなさい、何故なら今日こそは命、命の命です。

早く過ぎ去っていく今日には、生命のすべての可能性、すべての真理、そして、成長する喜び、活動の輝き、力の光栄が潜んでいます。

昨日はただの思い出、明日はただのヴィジョンにすぎません。

しかし、今日を良く生きていれば、過去の昨日のすべては幸せの思い出になり、

将来の明日のすべては、希望のヴィジョンになります。

ですから、今日を良く生きなさい。

(レオナルド・アルヴァレス訳)

忘れられない物語

「感謝の気持ち」

インドの偉大な聖者ナーラダが、神に会いに行く途中のこと。ヴィーナを奏でながら森を進んでいると、たいそう年老いた賢人が1本の木の下で座っているのに出くわした。

年老いた賢人はナーラダに言った「あなたは神様に会いに行かれるのですな。どうか神様に私からの質問をしていただけないでしょうか？ 私は3回の生涯にわたり、あらゆる努力をしてきた。後どれだけの努力が必要か？ あとどれくらい待たねばならないか？ 私の解脱はいつなされるのか？ どうか神様にお聞き下さい！」

ナーラダは笑いながら「わかりました」と答えた。

ナーラダが森をさらに進むと、別の木の下では、若い男が忘我の喜びに浸りながら踊り歌っていた。彼はとても若く、30歳そこそこだった。ナーラダは冗談めかしてその若者に尋ねた「私は今から神様のところに行きますが、神様に何か聞きたいことはないですか？ あなたの年老いたお隣さんは、神様に質問してきてほしいと言いましたよ」

若者は答えなかった。彼はまるで何も聞こえなかったかのように、そこに全く存在しないかのように、踊り続けた。

数日後、戻ってきたナーラダは老人に言った「神様に尋ねてきましたよ。神様は、あとさらに3生涯かかるとおっしゃっていました」。

老人は数珠を繰り返しながらジャパをしていたのだが、かっとなってその数珠を放り投げた。彼はずっと所持していた聖典も放り投げて言った「何という不公平さ！ さらに3生涯とは?!」

ナーラダが若者のところへ行くと、彼はまた踊っていた。ナーラダは「あなたは私の問いに答えなかったし、私に尋ねることもしなかったけれど、私はあなたのことも神様に尋ねてきました。しかし、老人の怒りを見たので、そのことをあなたに伝えるべきかどうか、ためらっています」と言った。

若者はまだ何も言わずに踊り続けていた。ナーラダは彼に伝えた「私が神様に尋ねると、『彼がその下で踊っている木の葉の数と同じ数だけ生まれ変わらねばならぬであろう、と若者に伝えよ』と神様おっしゃいました」

若者はそれを聞くと、さらに我を忘れて踊りだした。そして嘆いた「そん

なにすぐに?! この世界には多くの木があるが、それでも木は有限だ。だからそれらの木々の葉も有限です。それなのにたったそれだけでいいのですか? この木の葉の数だけで? たったそれだけの生涯で? そういえば私はこれまでも多くの生涯をなしてきました。あなたが次に神様に会われたら、私からの感謝の気持ちをお伝えください」

そして若い男はまさにその瞬間に解脱したようだ。次の瞬間に解脱したとは! 仮にそのような試験があるとして、若者のような神への全幅の信頼があれば、さらなる時間は課されない。もし信頼がなければ、3生涯ですら十分ではない。私は、老人はまだそのあたりにいると踏んでいる! 彼が解脱できているはずがないのだ。あと3生涯では無理だろう。そのような心は解脱できない。そのような心は最強の鎖を作り出すのだから。

…Osho オショウ

今月の思想

神を知るのは、理性ではなくハートだ。神を理性でなくハートで知ることを信仰という。

…ブレイズ・パスカル

<お詫びと訂正>

2月のニューズレターの「今月の思想」の翻訳に誤りがございましたので、お詫びを申し上げますとともに、下記のように訂正させていただきます。

(ニューズレター担当)

正：どんなことがあっても真実を求めるといふことは、何も惜しまない熱情のことだ。

…アルバート・カミュ

誤：とにかく真実は、何も惜しまないという熱情を好む。

…アルバート・カミュ

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp